

年會千代支部、愛甲郡愛川村青年團、津久井郡大澤村青年團、横濱市磯子區氷取澤町戸主會、三等賞銀カッパ賞金十五圓橋樹郡稻田村外十八團體四等賞銀牌賞金十圓橋樹郡山内村外四十團體なりしが、是等の入賞團體は從來ならば先づ以て優勝祝賀會等を催し賞金の大部分を費消したるものも稀れならざりしが今回は斷然去る事なく賞金の多寡に準

じ或は二宮尊徳先生の像を建立し或は愛護作業用の器具を購入し或は團旗を作製し其他團體基本金に繰入るる等悉く有意義に使用したりと言ふ、是等の行動は一面時局に對する反映とも見るを得べく且つ道路愛護團體の堅實味と眞剣味とを裏書きするものにして、推奨するに吝ならざる處なり。

## 愛知縣尾張大橋竣功式舉行の概況

川 越 篤

國道一號路線中の尾張大橋竣功式は去十一月八日内務大臣代理勝田參與官、永田内務技師、辰馬内務省名古屋土木出張所長、早川三重縣知事、三邊愛知縣知事、大野愛知縣會議長等臨場の下に舉行せられた。本路線は京都より伊勢大廟に達する我が國第一の交通幹線にして特種の地位を占め兼て政治經濟文化の府たる東京、京都、大阪等を聯絡し本州西端下關市に通する一大縦貫線を形成し最も重大なる使

命を有す昔時東海道五十三次の宿驛交通以來行旅の難所とし又寶歴年間より治水上幾多の史實を以て其名天下に聞へたる愛知、三重兩縣界を流下する木曾川に初めて架せられたものである。從來本箇所は纔に渡船を以て彼我の道路を聯絡したるに過ぎず、出水一度疎らば交通は杜絶し不便名狀すべからざるものあり、殊に近代的交通機關たる自動車の利用困難なる爲地方の發展文化の普及に影響したる所尠

からざるは想像に難くない故を以て本橋架設の最も緊急な

るは言

を俟た

ず、縣

當局に

於ては

大正十

一年一

月之が

施行を

企畫し

昭和五

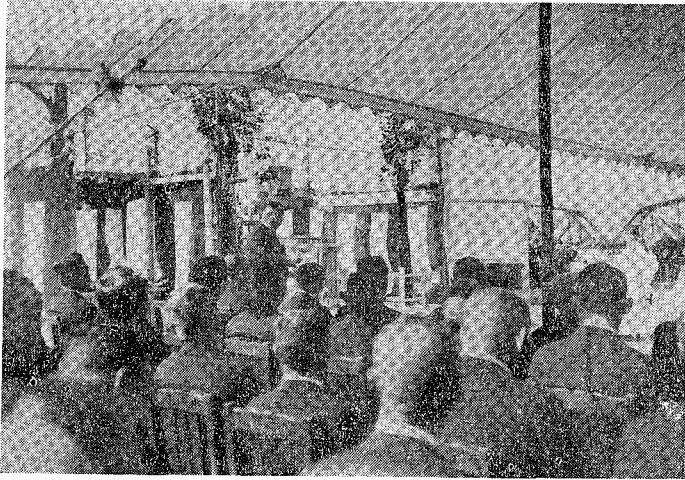
年三月

先づ橋

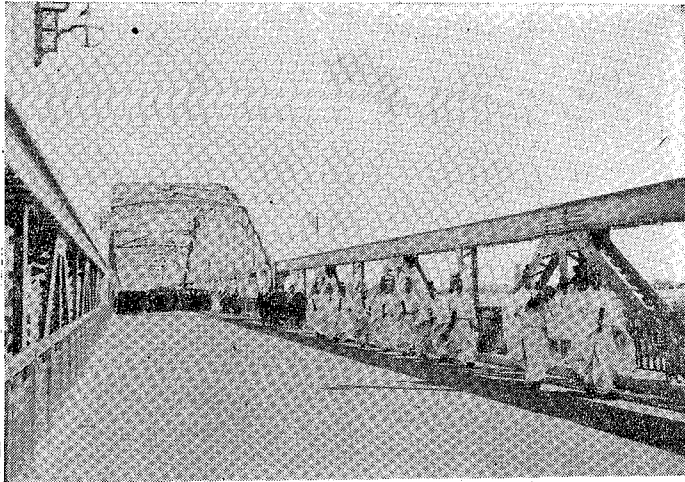
臺工事

に着手

し越て同六年八月橋脚工事を起し三年七箇月を以て茲に竣



功を見たるものなり。



橋型

は補剛

構桁付

繫拱十

三連單

構桁一

連全長

八百七

拾八米

幅員七

米五、

橋脚は

十三基

橋臺二

基より

成り橋脚基礎は地質上特に干潮面以下二十五米の潜函基礎

を沈下し橋臺は枕打基礎にて孰れも鐵筋コンクリート構造とす、橋床は鐵筋コンクリート床版とし、アスファルトブロックを以て鋪裝す使用したる主要材料は鐵材三千噸、セメント十六萬八千二百九十袋、アスファルトブロック六千四百四十八平方米にして取付道路延長愛知縣側二百十二米、三重縣側二百八十六米有效幅員十一米とす、鋼材は横濱ドック株式會社の製作に係り橋臺工事は中央土木株式會社之を請負ひ、セメントは淺野セメント株式會社より購入し其他橋脚工事及鋼材架設並に上部工事は間組の請負にして夫々精勵其の工を竣へたり。

本橋架設に要したる總工費は壹百五十六萬餘圓使用延人員九萬七千餘人を算するものにして近代科學の粹を集め耐震耐火の構造を以てし其の威容は三重縣に於て施行せられ近く竣功すべき揖斐、長良の大橋梁と相並び永く我が國、道路史上に其の名を止むべきものなり、此舉式に臨み内務大臣代理の代讀せられたる祝辭は左の如し。

祝 辭

一號國道尾張大橋架設功ヲ竣へ本日茲ニ開通ノ式ヲ擧ケラル邦家ノ爲寔ニ欣慶ニ堪へサルナリ

由來一號國道ハ我邦ニ於ケル交通幹線ニ屬シ道路交通上頗ル重要ナル地位ヲ占ムルニ拘ラス木曾川ヲ横過スル所橋梁ノ設備ナク古來行路ノ難關トシテ交通行政上久シク遺憾トスル所ナリキ愛知縣當局深ク思フ此ニ致シ昭和五年橋梁架設ノ計ヲ樹ツルヤ政府亦之ヲ助成シ新式精緻ノ規畫ノ下ニ今其ノ工ヲ竣フ念フニ今後之ニ依リ東西ノ交通更ニ一段ノ利便ヲ加ヘ産業ノ振興ニ文化ノ向上ニ將又軍事ノ行動ニ其ノ資補スル所極メテ大ナルモノアラム茲ニ本日ノ盛式ニ際シ深く關係官民諸君ノ努力ヲ多トスルト共ニ將來之カ維持管理ニ力ヲ致シ以テ長ニ其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ望ム一言所懷ヲ述ヘテ祝辭ト爲ス

昭和八年十一月八日

内務大臣 男爵 山 本 達 雄